

## 課題名： 高等教育における生成 AI の認識と受容に関する研究 —教員と学生インタビューによる実証的調査—

研究代表者名： 関 琄新 (先端教育研究実践センター)

研究組織： 中島 平 (教育情報アセスメント講座)

澤田 亮 (高度教養教育・学生支援機構)

小嶋 秀樹 (教育情報アセスメント講座)

### 研究目的

対話型生成 AI (以下、生成 AI) の登場により、高等教育の現場は大きな変化を迎えている。生成 AI は個別最適化された学習体験を提供する可能性を秘める一方で、適切に活用されなければ表層的な学習を助長するリスクもある。学習への影響は学習者の自己調整学習能力 (self-regulated learning skills) や批判的思考力 (critical thinking skills) に大きく依存するため、教育現場への統合には慎重な検討が必要である。本研究は、生成 AI に対する教員と学生の認識および受容を調査し、高等教育における生成 AI 活用の可能性と課題を明らかにすることを目的とする。さらに、教育・学習プロセスへの生成 AI の効果的な統合戦略を検討する。

### 研究方法

本研究では、生成 AI の使用経験がある教員 3 名、学部生 20 名、大学院生 8 名を対象に半構造化インタビューを実施した。教員を対象とした調査では、生成 AI の認知度、教育での活用経験、使用感を中心に、教育効果として学習意欲向上や教育効率への影響を尋ねるとともに、情報の正確性や学生の関与度に関する懸念についても質問した。学部生を対象とした調査では、生成 AI の使用経験や受容度、学習支援や効率化に関する認識、依存のリスク、倫理的使用に関する理解について調べ、トレーニングニーズや将来の利用意向についても尋ねた。大学院生を対象とした調査では、研究や論文執筆における生成 AI の活用法として、アイデア生成や研究の質向上の可能性を探り、複雑なタスク処理やアカデミック・インテグリティに関する懸念について質問した。さらに、トレーニングニーズや将来の研究での生成 AI 活用の可能性についても調査した。

### 研究経過

- (1) 2024 年 7 月~2024 年 8 月：研究倫理審査委員会からの承認 (調査同意書の作成)
- (2) 2024 年 9 月~2024 年 11 月：文献レビューと質問項目の作成
- (3) 2024 年 12 月：調査協力者の募集

- (4) 2025 年 1 月~2025 年 2 月：インタビュー調査の実施
- (5) 2025 年 3 月：インタビュー内容のテープ起こしとデータ分析

## 研究成果

本報告書作成時点ではデータ分析が完了していないため、現時点での中間結果を述べる。調査の結果、生成 AI の使用経験がある学生は一定数存在するものの、大半の教員と学生は生成 AI の活用方法に関する理解が限定的であることが明らかになった。例として、第二言語の翻訳ばかりに生成 AI を使用し、他の可能性を考慮しなかったり、表層的な対話にとどまり、生成 AI の性能を引き出しきれなかったりなどの状況が明らかになった。学習において生成 AI に過度に依存する学生は少ないが、どのように活用すべきか迷っている学生が多く見られた。学生の多くは、生成 AI を使いこなせる人と使いこなせない人の間で将来的に大きな差が生まれる可能性を懸念しているが、自身が生成 AI を活用できる自信は低い傾向にあった。また、生成 AI の利用と倫理的問題に関して、教員と学生の間で十分な議論がなされていないことも課題として浮かび上がった。今後、データ分析完了後に学会で発表し、フィードバックを得た上で論文を執筆し、国際学術誌への投稿を予定している。

## 今後の課題

教員の調査対象が少数であったため、生成 AI に対する認識と受容の実態を十分に把握するにはさらなる調査が必要である。今後は、教員への追加インタビューを実施し、調査結果をもとにアンケート調査を設計することで、より多くの教員・学生を対象とした大規模調査を実施し、生成 AI の教育・学習への影響を包括的に分析することが求められる。

## 謝辞

- (1) インタビューに調査ご協力いただいた教員と学生に感謝申し上げます。
- (2) 本稿では「東北大学大学院教育学研究科先端教育研究実践センター2024 年度プロジェクト研究助成」を受けて実施した研究成果の一部である。研究を支援していただいた東北大学大学院教育学研究科先端教育研究実践センターに感謝申し上げます。